

## 海南神社 三浦市三崎4丁目 12-11

相模国三浦総鎮守。藤原資盈（ふじわらのすけみつ）、資盈の後である盈渡姫（みつわたりひめ）、釜龍弁財天（せんりゅうべんざいてん=三浦七福神）、及び地主大神を祀る。

清和天皇の治世、皇位継承争いに絡んで左遷された藤原資盈が貞観6年（864年）、任地の筑紫国へ赴く途中で暴風によって三浦半島に漂着し、当地の長に推戴された。その後、資盈は海賊を平定したうえで福祉に努めたことから地元民に崇敬され、貞観8年（866年）に資盈が没すると、地元民は祠を建てて祀り天元5年（982年）には現在の地に社殿が建立され三浦郡の総社となった。治承4（1180）年、源頼朝の挙兵に呼応した和田義盛は衣笠城で畠山・江戸の諸軍と戦ったものの落城、海路房州に逃れた。折悪しく大暴風雨に遭遇し流されて兵糧が尽きた時、魚を捕り、主従飢えをしのぐことが出来たことで祠を造り祀った。

また、同神社には源頼朝がお植えになられた御神木や、龍神様の形をした御神木等がある。



道路から直ぐに石柱



山門



手水者



鮮やかな神楽が飾られていた





本殿



本殿正面に弁財天像があった



動物の七福神



樹齢 800 年のご神木



ご神木の周りにある石

神 奈

きょうから三崎・海南神社

## 「どうぶつ七福神」開帳

9月末に閉館した末藤「京葱油壺マリパーク」(三浦市三崎町小網代)の「どうぶつ七福神」が同市三崎の海南神社に引き取られ、大分かの3日から開帳される。ペンギンやサメ、フクロウなどの実物本が並ぶ。1月15日まで。(佐藤 浩)

「どうぶつ七福神」は、マリパークで展示していた7種の生物形態や特徴を参考に七福神に見立て、2013年から1月に熊本施設内のゆかりの場所に設置。開中、来場者は自由に参拝していた。

標本は、海南神社をほじめとする「浦七福神」の7寺社から分霊を寄げた。本館には生物や各寺社の紹介とともに、フクロウの羽根、コキリエノコ冥、ペンギンの卵、チョウザメの卵、マリパークの蘭などが並べられていた。

海南神社は開式や動物貯靈祭などもままマリパークの神事を執り行ってきた。閉館後の10月に七福神を全て引き取り、本殿

### マリパークから継承

に安置していた。12月3日感謝式で、拝観しはじめは神威降臨する。いと賑わっている。

マリパーク閉館日にも家族で参拝したという由、郷海高47はマリパークで展示していたが、今年2月1日は私ごとを思出し、他に水族館への譲渡して、これらを葉集ま、参拝してほしい。

31日から開帳される「どうぶつ七福神」- 海南神社